

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	asmo			
○保護者評価実施期間	2025年01月01日		～	2025年02月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年01月01日		～	2025年02月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年03月01日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援と通所支援の多機能であるため、児童の所属する社会へ直接訪問して支援だけでなく、そこで児童の状態や困り感を正確に把握して、通所支援プログラムや家族支援、学校連携に活かすことが出来る。	療育プログラムを提供している間、保護者が療育の様子を見学出来るようにしている。 療育プログラムを実施している最中に、保護者と面談をして、最近の様子や困り感等のキャッチアップを行い、必要に応じてペアレントトレーニング等の家庭支援も実施している。	現在、ICT化を進めており、システムを通じて保護者が療育の方針や進捗を把握することが出来ているが、機能としてあるものの保護者の認知が低くいまいち活用されていない。 慣れないシステムへのアシストを実施し、更にシステムが活用され、お互いに解像度高く状況把握し支援の質の向上につなげていく。
2	一コマあたりで参加児童の人数に制限を設けており、比較的少人数での療育を実施している。 そのため、ひとりひとりの児童に向き合うことが可能。		
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々変化する児童や保護者からの困り感やニーズをキャッチアップして柔軟に療育方針を変更する	一部保護者については、LINEやHUGなどの連絡ツールでのコミュニケーションが連絡に留まっている。	コミュニケーションツールの有効活用について、スタッフ研修を実施 また、来所時に保護者との接点を積極的に持ち、コミュニケーションを円滑にする。
2	家族支援プログラムについて、十分に満足いただけていない	地域の他の子どもとの交流について 利用児童の療育提供時間を避けて、地域の保育園や学童などとの交流は行っていた。 利用児童との交流については、現時点はニーズがなかったことと、安全性を鑑みて、積極的に実施する必要はないと判断した。	長期休みや祝日などの保護者が気軽に参加できるタイミングで、家族乗馬や保護者の曳き馬体験などのイベントを開催する
3	保護者間の交流 地域の他の子どもとの交流		地域の他の子どもとの交流について 強いニーズがあれば実施を検討する